

## 奈良市環境基本計画市民ワークショップ第5回全体会議 会議録

<日 時> 平成23年8月26日（金）午後6時半～

<場 所> 奈良市役所 北棟6階 第22会議室

### <プログラム>

1. 開会
2. 施策について（各分科会の発表）
3. その他
4. 閉会

### <会議資料>

- ・ 施策ワークシート（分科会別）
- ・ 第5回全体会議 ふりかえりシート

### <出席者>

#### 【市民ワークショップ委員】出席25名、欠席8名

池田敏泰、井上聆夫、岡本胤継、北浦由香、北端辰昭、河野元昭、小松弘子、清水順子、田川嘉隆、日月英昭、鶴保謙四郎、中川徹、船本知子、横山亜希子、宮澤賢治、横田好弘、矢藤加寿子、石田美智男、栗岡理子、島浩二、南垣内貞史、岡野恵子、瀬林傳、松本忠夫、井上雅由

#### 【事務局】11名

環境政策課 桐山、新井、柴田、油谷、坂崎、平野、杉田、吉留、松本、石橋

#### 【コンサル】1名

株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所 大川

### <傍聴者>

なし

## <会議の概要>

### 1. 開会

司会（環境政策課 柴田）より、本日の会議の流れ、配布資料について説明。

関西電力の植本さんの後任として宮澤さんが新たに市民ワークショップに加わったことの報告。

### 2. 施策について各分科会の発表

各分科会の発表者が、第7回から第10回分科会を通じて取りまとめた施策の中でリーディングプロジェクトをいくつか選び、今回の全体会議で発表を行った。

#### [1]地球温暖化対策分科会

各委員より各自のワークシートの説明

田川さん：有機系廃棄物のメタン発酵によるガスの有効活用

村木さん（田川さんによる発表）：市民の自主的な省エネへの取り組みを支援する仕組みづくり

宮澤さん：電気自動車など省CO<sub>2</sub>高効率機器の普及。IT技術により家庭内のエネルギーが適切に管理されるスマートハウスの実証実験、経済的受益の検証

清水さん：地域で最大限再生可能エネルギーを利用するまちづくり。エコ運転の啓発と環境に配慮した自動車への買い換えをすすめるための啓発など

鶴保さん：創エネルギー、省エネルギーのまち

北端さん：エネルギー問題に関する市民への啓発、環境基本計画の具体化。

コジェネレーションシステムなど環境に配慮した機器の導入。

休耕田などへの太陽光パネル設置による有効活用。

省エネ・環境保全機関のノウハウの収集と連携づくり

（詳細は施策ワークシートを参照）

#### ◎質疑応答

- ・奈良市衛生浄化センターでは今もメタン発酵が行われているのか？

→先週見学に行ったが、そこで行われていた。幼稚園、小学校の廃棄物を回収し利用している。

- ・日本では、し尿の量は減少傾向にあり、食品残渣だけではメタン発酵の効率は悪いのでは？またドイツではメタン発酵は主に飼料などが利用されている。しかし日本では飼料、肥料ともに足りていないのでは？

→詳細な点については今後議論していきたい。

- ・バイオマス利用して廃棄物の有効活用することは良い事だが、ごみの量自体を減らしていくということは検討しているのか？

→国の政策として2020年までに25%のCO<sub>2</sub>削減を目指しているが難しい。今後どのようにCO<sub>2</sub>を減らす取組を行っていくべきか検討していく。

#### [2]都市環境分科会

- ・メンバーを代表して石田さんが発表

- ・都市環境分科会の施策は①都市景観、安全・防災（ワークシート都市A、都市BCD）、  
②森林・農業地/市街地（都市E）、  
③交通（都市FG、都市I、都市J）  
を3本柱にしている。

(詳細は施策ワークシートを参照)

#### ◎質疑応答

・奈良市の市街地には世界遺産、神社、寺などの国宝の施設も数多く存在している。そのこともワークシート都市BCDに加えるべきではないか？

・ワークシートBCDに関連して、マイカーの観光地への流入規制をより具体的に考えていく必要があるのではないだろうか？

→中心市街地、観光地へのマイカー流入、マイカー通勤の規制についてさらに検討していきたい。

・道路づくりは行政だのみのところが多いが、これからの道路はより市民の感覚を反映させた道路が必要だと考えている。そのことについて都市環境分科会ではどのように考えているのか？

→マイカー規制などの検討は行ってきたが、どのような道路をつくるべきかの広い議論は行っていなかった。

・ワークシート都市E、Iでは農業地域と市街地の関係性が書かれているが、より農業地域の独自性を活かした施策を検討するべきではないだろうか。

・自転車の利用を促進する環境などの政策を検討しているが、自転車の利用マナーや事故が問題になっていることも検討すべきでは。

### [3]生活環境分科会

生活環境の公害関連の施策は瀬林さん、循環型社会関連の施策は栗岡さんより発表

・公害に関連する施策は、大気・水質・土壌の汚染対策・調査や騒音対策・望ましい音環境の創造、化学物質の監視・管理の在り方、その対策として戦略的な環境評価を行う環境行政の在り方をテーマにしている。

・循環型社会に関連する施策は、廃棄物の削減に向けたごみの有料化、料金の見直し、3Rの推進、レジ袋の有料化、自販機の設置のあり方、不法投棄をテーマにしている。

(詳細は施策ワークシートを参照)

#### ◎質疑応答

##### ①公害関連

・戦略的な環境評価を行うところまで踏み込んでいるが、そこまで行う価値があるのか？

→まちをどう開発していくのかを考えるときに必要な考え方になる。

・大気測定や調査には質や数の問題があり、費用も掛かる。どれぐらいの規模の測定を考えているのか？また現在の測定項目以外にも必要なものがあるのか？

→PM2.5という微粒子はぜんそく、気管支炎の原因になり問題になっている。健康上でも測定は必要と考えている。

・奈良市において、かおり風景100選、音風景100選に選ばれたものはあるのか？

→音風景100選には春日野の鹿と諸寺の鐘、かおり風景100選には、なら燈花会のろうそく、ならの墨づくりが選ばれている。

・ワークシートからは、今奈良市がどれほど環境基準値を達成していないのかがわからない。現状を明記するべきでは。

##### ②循環型社会関連

・ごみゼロを目指すことは良い事だし、自販機を減らすことも節電につながり、景観にも良いこ

とだと思ふ。

→条例などではなく自主規制が本来なら望ましい。これからは節電を行わないと立ち行かない社会になっていくと考えている。

→しかし自販機の設置規制は難しい。広告建築物として風致地区では規制するなど、何らかの策を検討していかないといけない。

・自販機の設置を規制する条例の制定には賛成できるが、ごみの有料化には賛成しかねる。税の二重取りになりかねないか？

→現在ごみは減少する傾向が見られないため何らかの対策が必要になっている。多くごみを出す人とあまり出さない人との間の不平等を解消し、ごみを出さない人が得をすることを目指したい。

#### [4]自然・歴史分科会

メンバーを代表して井上さんより発表

自然関連の施策は、①森林を守るために木を利用する仕組みづくり、森林環境税の導入や住民が親しみやすい公園の維持・管理

②市内で農作物の生産を増やし、市内で消費する地産地消の仕組みづくり

③在来種の保護、外来種の規制を行うための法整備を行い、奈良市の生物多様性を守る仕組みづくり

④川、ため池の保全、自然回復工事を行い自然の状態に戻し、親水公園の整備を行う

歴史関連の施策は、①歴史的景観及び鹿などの生活環境を残し、ゆったりと歩き、観光できる街を目指す

②若い世代に奈良の歴史、伝統を伝えて引き継いでいく仕組みづくり

③文化財保護のため自動車の流入規制

④バッファゾーンの災害対策ポイントの調査・対策

⑤奈良市内で行われている、自然と融和した伝統的行事の月ごとの告知

(詳細は施策ワークシートを参照)

#### ◎質疑応答

・学校給食を地産地消することを目指し、そのために組織をつくるべきでは？

→食品の品目、数量の確保、衛生の規制があるため大手メーカーでないと学校給食への地産地消の導入は難しいという問題がある。

・レッドデータブックの作成を目指すよりも、レッドデータリストを作る方がより迅速に作成できるのでは。

#### [5]環境教育分科会

メンバーを代表して岡本さんより発表

環境教育分科会は①地域の環境をより身近に学ぶため、学校での教育でのプログラムと公民館でのプログラムに分け、また環境教育の人材育成のためのプログラムに関連すること

- ②環境教育を推進する組織に関連すること
  - ③環境教育の進捗状況、効果を評価する第三者による評価関連
- 以上の施策を3本柱にしている。
- (詳細は施策ワークシートを参照)

◎質疑応答

・自治連合会を環境教育の推進組織として挙げているが、率先して環境教育に協力してくれるのだろうか？

→こちらから具体的な環境教育の方向性やプログラムの提供などを行えば協力してくれる自治連合会は協力していただけたと考えている。

・環境教育プログラムの対象者を学生としているものは、最新の電子機器などを利用して楽しめるものにして、また家族まで含めたプログラムを行うとよいのでは。

・環境教育を推進する組織は情報の蓄積、または他の環境教育を行っている組織との情報の共有が重要ではないだろうか。

**(2) その他**

・各分科会から提出されたリーディングプロジェクト、または今回の会議の質疑応答で出た意見を環境基本計画骨子案2にどう反映させていくのか、リーダー・サブリーダー会議でさらに検討していく。進行状況の報告は適宜していく。

今回の会議で議論が不十分な場合は、リーダーと連絡をとってもらい、各分科会ごとに調整していただきたい。

また骨子案はまだ二回目の修正の段階にあり、さらに修正が必要になってくるため、意見などは事務局の方へも連絡していただきたい。

・次回の全体会議の日程はリーダー・サブリーダーと調整後に各委員に連絡予定。